

神戸文化ホール開館50周年事業

神戸文化ホールは1973年に開館し、2023年で50周年を迎えました。今後3年間に渡って、劇場が有する創意と知見、人的資源を最大限に活用して独自の企画制作を行い、神戸発の実演芸術として、多くのの方々に共感・共鳴していただけるような神戸文化の魅力を発信していきます。

「緑のテーブル2017」は、50周年記念ダンス事業のトップを飾るプログラムです。

作品を通して、時を超えて伝え息づく芸術の力と平和の大切さを未来へと繋げます。

入場料金(全席指定・税込)

一般	U25 (25歳以下)	高校生以下
4,000円	2,500円	1,000円

チケット取り扱い 発売中

○神戸文化ホール
オンラインチケットサービス



<https://www.kobe-bunka.jp/hall/ticket/>

○神戸文化ホールプレイガイド

TEL:078-351-3349 / 10:00~17:00

(定休日:月曜日※月曜日が祝日の場合は翌平日が休み)

○チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード:520-205)

○ローソンチケット <https://l-tike.com/> (Lコード:53352)

お問合せ 神戸文化ホールプレイガイド

TEL:078-351-3349 / 10:00~17:00

(定休日:月曜日※月曜日が祝日の場合は翌平日が休み)

【おからだの不自由な方】

- ・受付に手話通訳による案内係がいます。
 - ・車椅子席/補助犬の同伴が可能な席をご用意しております。
 - ・必ず事前にお申し込みください。
 - ・車椅子席・オストメイト対応トイレのご利用が可能です。(1階)
 - ・館内専用車椅子の貸出があります。
 - ・AED 自動体外式除細動器があります。
- 申込先:神戸文化ホールプレイガイド
TEL:078-351-3349 / 10:00~17:00
(定休日:月曜日※月曜日が祝日の場合は翌平日が休み)

【託児サービスのご案内】

- (定員あり要予約)
- 対象:1~2歳児
- 利用期間:開場~終演後20分まで
- 利用料金:無料
- 定員:5名(先着順)
- 申込期間:8/1(火)~10/6(金)まで
- 申込先:神戸文化ホール事業課
- TEL:078-351-3397 / 平日9:00~17:00
- ※当日はホール受付までお越しください。係りの者が託児室までご案内いたします。



<https://www.ensemblesonne.com/gt2023kobebunka50th>

神戸文化ホール
KOBEBUNKA HALL

〒650-0017 神戸市中央区楠町4丁目2-2

・神戸市営地下鉄西神・山手線「大倉山駅」徒歩1分(新神戸駅より3駅7分)

・神戸高速鉄道「高速神戸駅」徒歩8分 / JR「神戸駅」徒歩10分

・神戸市営地下鉄海岸線「ハーバーランド駅」徒歩12分

【出演】

風:貞松融(貞松・浜田バレエ団)
風:中村恩恵
死神:垣尾優
利得者:糸瀬公二(アンサンブル・ゾネ)
兵士:堤悠輔(貞松・浜田バレエ団)
難民:岡登志子(アンサンブル・ゾネ)
パルチザン:松村有実(アンサンブル・ゾネ)
パルチザン:アントニア・シュテッカー(アンサンブル・ゾネ)
政治家:善竹忠亮(大蔵流狂言方)
政治家/女たち:武藤天華(貞松・浜田バレエ団)
政治家:大門智(貞松・浜田バレエ団)
政治家:大熊隆太郎(竜劇屋)
政治家/女たち:桑野聖子(アンサンブル・ゾネ)
女たち:小林奈央(貞松・浜田バレエ団)
女たち:小澤日向花(貞松・浜田バレエ団)
女たち:河合宥
女たち:長谷川陽菜
アンダースタディ:橋本さくら(ENTERART)
音楽協力(ピアノ演奏):田村ゆう子 金岡優子

【賛助出演】

祈りの踊り連:
岩田尚登(時宗満福寺住職・踊り念仏プロジェクト“YUYAKU”)
大谷煥(NPO法人ダンスボックス理事長・新開地アートひろば館長)
桂あやめ(落語家・神戸新開地喜楽館利用促進委員)
衣笠収(NPO法人umidas耕作所)
島田誠(ギャラリー島田代表・公益財団法人神戸文化支援基金理事長)
下田展久(NPO法人芸術と計画会議)
全美玉(多文化まちづくりの会会長)
服部康子(元兵庫県人権教育研究協議会事務局長)
廣中薫(美術家・神戸芸術工科大学ビジュアルデザイン学科准教授)
ミヒャエル・イエーレ(大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館首席領事)
李圭燮(韓国民団兵庫本部前団長)
※五十音順

【一般参加】

祈りの踊り連:
今貂子 島田迪 波多野円香
内山悠紀 島田容子 原田真二
太田悠希 高島明子 平野陽子
片岡達美 高橋詩菜 MASAKO
鴨谷香 館明子 山口陽名利
河元明里 CHIAKI やましたせつこ
久々成秀司 TOTTO ※五十音順
坂田美優 野本有希

構成・振付・演出・出演:岡登志子
美術:廣中薫
照明デザイン:吉本有輝子
照明アシスタント:岩元さやか
舞台監督:大田和司
テーブル製作:柏木準人
音響:西川文章
衣装:牧和美
ヘアメイク:KOMAKI(kasane)
手話指導:三田宏美
ゲストレナー:市田京美
宣伝美術:ヤング荘
プロデューサー:岡野亜紀子(神戸文化ホール)
制作:熊井一記(神戸文化ホール) 土山麻理子(神戸文化ホール)

Creating in Kobe 神戸で創る「港町賛歌」
50人で踊る「緑のテーブル2017」

緑のテーブル2017

~神戸文化ホール開館50周年記念Ver.~

2023年10月21日[土] 15:00開演(14:30開場) 会場 | 神戸文化ホール 中ホール

入場料金(全席指定) | 一般:4,000円 U25(25歳以下):2,500円 高校生以下:1,000円

主催:神戸文化ホール(指定管理者:公益財団法人神戸市民文化振興財団)
企画制作:アンサンブル・ゾネ 大野一雄舞踏研究所 NPO法人ダンスアーカイヴ構想
協力:一般社団法人貞松・浜田バレエ団 NPO法人ダンスボックス 時宗満福寺 NPO法人umidas耕作所 ギャラリー島田 Ensemble Sonne
公益財団法人神戸文化支援基金 C.A.P.(NPO法人芸術と計画会議) 多文化まちづくりの会
韓国民団兵庫本部 六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond Artist in Residence KOBE
後援:大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 ゲーテ・インスティテュート大阪・京都 兵庫県洋舞家協会



「緑のテーブル2017」は、ドイツの振付家クルト・ヨースが1932年に発表した「La Table Verte(緑のテーブル)」に想を得て、新たに創作したコンテンポラリーダンス作品です。ヨース作品に芝居のような筋書きはないものの、それぞれのダンサーがキャラクターを演じ、ヨースの造形した登場人物の演技を通して、私たちは人間の普遍的な感情に触れることができます。「緑のテーブル2017」はこのようなヨース作品の骨格に触発され、それを今日の視点から描き直し、今を生きる人々の心に触れようとした作品です。今回は公募ワークショップ参加者も併せて、総勢50人の出演者とともに創作する、特別バージョンをご覧いただきます。

緑のテーブル 2017

観劇印象記
文・おぼろけ
画・あんのようすけ

中央区文化センターでダンス公演があると聞いて見に行きました。演目は「緑のテーブル」コンテンポラリーダンスです。



舞台の真ん中に白いテーブルが、祭壇のような静けさ...さて何が起きるのか...

1. 風の言葉

ヒューマン・ヒューマン、芸術に国境ハアリマセ又
ヒューマン・ヒューマン、戦争ハシテハナリマセ又

風の男と妖精のような女が登場、なにを言ってる、何だろう、アリマセ又、ナリマセ又

2. 政治家たち

赤ネクタイの政治家達が、テーブルを囲んで、身振り、手振り、話し合い、争い、こた、

あの名な政治家さんみたな

あんな時でもお金お金、

風はどこから吹いて来るのか、どこに吹いていくのか

時々の神様、いや、死神様が現れた

長い腕がぐるぐる回る時計の針みたい、

死神はどこにでもいる、

死神様、

あんな時でもお金お金、

復讐者の利得者がいるが、人間社会の複雑で、新聞を読んでも何やらさかしくしている様子

4. 戦場

戦争はこんなにいきなりやってくるのか

風景は一転、戦場に二転

自然空にサイレンが響く

風はどこから吹いて来るのか、どこに吹いていくのか

あんな時でもお金お金、

復讐者の利得者がいるが、人間社会の複雑で、新聞を読んでも何やらさかしくしている様子

海を渡って逃げて来た難民、海峡を渡る蝶のように命向けの地遊行、

死神を祀らないで、難民を逃がしてあげて、

7. 祈りの踊り

でも戦いはいつまで続いていくのかしら

少女パルチザンの抵抗の踊り、健気で力強い

ダンダンダン、ジャジャジャー、ダンダンダン

祈りの踊りが始まった。

風の中の男と妖精も踊りの輪の中に

アリマセ又、ナリマセ又、ナリマセ又、ナリマセ又、祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

永遠、永遠、

祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

永遠、永遠、

祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

6. アフターズ

終末時計は今何時

起きなさい、

旅きなさい、

ここが私たちの終着駅

こわい、こわい

死神様、

あなたはまだの名付け親、どうかお願い、消さないで、命のロソク消さないで、

時間は止まらうんもんお

永遠、永遠、

祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

永遠、永遠、

祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

5. 女たち

世界の終わりが近づいているのかも

寝転んでいた男も加わり、享楽の控えた客

からりと場面変わって、怪しげなウイスキーバーで踊る女達

息子よお前はどこに行ったの、いつ帰ってくるの

またまた、そんなところに登ってる

風の精のささやきが聞こえる、

またまた、そんなところに登ってる

またまた、そんなところに登ってる

3. 死神

長い腕がぐるぐる回る時計の針みたい、

死神はどこにでもいる、

死神様、

あんな時でもお金お金、

復讐者の利得者がいるが、人間社会の複雑で、新聞を読んでも何やらさかしくしている様子

海を渡って逃げて来た難民、海峡を渡る蝶のように命向けの地遊行、

死神を祀らないで、難民を逃がしてあげて、

7. 祈りの踊り

でも戦いはいつまで続いていくのかしら

少女パルチザンの抵抗の踊り、健気で力強い

ダンダンダン、ジャジャジャー、ダンダンダン

祈りの踊りが始まった。

風の中の男と妖精も踊りの輪の中に

アリマセ又、ナリマセ又、ナリマセ又、ナリマセ又、祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

永遠、永遠、

祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

永遠、永遠、

祈る神はそれぞれ違っても人間の祈る行為はひとつのほずだ

関連企画
緑のトークセッション
様々な踊りのバックグラウンドを持つ多彩な表現者が、「緑のテーブル2017」に連なるダンス談義を展開します。作品の鑑賞が何倍も楽しくなる関連トークセッションにご期待ください。【要予約】
詳しくはこちら



夏の朝篇
「舞踏の視点」
森山未来×ダニエル・プロイエット×岡登志子
2023年8月24日[木]
10時開始
俳優且つダンサーとして活躍する森山未来と、六甲ミーツアート2023のパフォーマンスに参加するアルゼンチン出身の舞踏家ダニエル・プロイエットが、岡登志子とともに舞踏の視点からダンスについて語り合います。

秋の夕篇
「伝統と現代」
垣尾優×善竹忠亮×岡登志子
2023年9月21日[木]
19時開始
コンテンポラリーダンスのフィールドで新たな地平を切り開く垣尾優と大蔵流狂言方として室町時代から受け継ぐ伝統を守り現代に再生する善竹忠亮が、岡登志子と交えてそれぞれの関心や疑問をもとに語り合います。

会場(両日とも)
中央区文化センター
多目的ルーム
(神戸市中央区東町115神戸市役所西側)



垣尾 優(かきおまさる) | モダンダンスや大野一雄の舞踏などに強く影響を受けながら、音楽や哲学、映画やストリートカルチャーなどの現代の様々な分野の表現にも影響を受け、独自に解釈し身体化した動きに定評がある。2004年より岡登志子主宰アンサンブル・ゾネの作品にゲスト出演。2006年、塚原悠也とcontact Gonzoを立ち上げ、2009年まで活動。FIDCDMX(メキシコ)ソロダンスコンペティションに選出(2018年)。垣尾優ソロダンス『愛のゆくえ』(2019年)『それから』(2021年)発表。

中村 恩恵(なかむらめぐみ) | ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞受賞後渡欧。モンテカルロ・バレエ団等を経て、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンスシアターに所属し世界を牽引する振付作家達の創作に携わる。振付家として精力的に活動しながら、後進の育成にも熱心に携わっている。2007年より、活動拠点を日本に移し振付家としての活動を精力的に展開。2011年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年服部智恵子賞、2018年紫綬褒章等多数の受賞歴を持つ。

貞松 融(さだまつとおる) | 貞松・浜田バレエ団代表。1932年生まれ。戦争の経験から「芸術は人を真切らない」という思いで舞台芸術の世界に飛び込む。法村康之、松山樹子、マリカ・ベゾブラソヴァに師事。フランス、モナコ、イギリス、アメリカ、中国に研修及び短期留学。1998年舞踊文化功労賞、2008年橘秋子賞・功労賞、2012年文化庁長官表彰、2022年第70回舞踊芸術賞受賞。

岡 登志子(おかとしこ) | 神戸市長田区出身。アンサンブル・ゾネ主宰。ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州立フォルクヴァンク芸術大学舞踊科卒業。1993年より神戸を拠点にドイツで習得したダンスメソッドを実践しながら、現代を生きる人間に共通する身体を通し、人間の実存を問う作品づくりを行っている。2014年神戸長田文化賞、2018年KOBE ART AWARD 大賞、神戸市文化賞受賞。近作にピアニスト高瀬アキとの共作「キッチン」。

